

# 魚類防疫に関する技術指導と研究

(魚病対策指導事業・水産用医薬品対策事業)

開内 洋・堀 玲子・岡本 満・山根恭道

石原成嗣・松本洋典・栗田守人

## 1. 研究目的

海面及び内水面の魚病被害軽減と魚病のまん延防止のため、魚病検査や水産用医薬品の適正使用の指導及び、養魚指導・相談を行なう。

## 2. 研究方法

種苗生産場、中間育成場、養殖場を巡回し、疾病の対処法や飼育方法の指導、助言を行うとともに、疾病発生時には迅速に現地調査や魚病検査を行った。また、天然水域で大量へい死が起こった場合も現地調査や魚病検査を行った。

魚病の検査方法は主に外観及び解剖による肉眼観察、検鏡観察と細菌分離を行なった。細菌が分離された場合は、薬剤感受性検査（ディスク法）を実施し、治療・対策方法並びに水産用医薬品の適正使用について指導を行なった。また、KHV病やVNN症等についてはPCR検査を実施して原因ウイルスの存在を確認した。

なお、アユの冷水病に関しては「アユ冷水病対策事業」に別途記述した。

## 3. 研究結果

今年度の魚病診断件数は、隠岐地区海面7件、出雲地区海面5件、石見地区6件、内水面32件（うちKHV検査10件）であった。主要なものとしては以下のとおりである。

出雲地区では、種苗生産中や養殖中のメガイアワビに飼育技術が原因と思われる斃死やビブリオ症が見られた。

石見地区では養殖のヒラメにレンサ球菌症やネオヘテロボツリウム症などが発生した。また、食品への異物混入に対する相談もあった。

隠岐地区では6月に種苗生産用ヒラメの親魚でスクーチカ症が発生した。また、食品への異物混入に対する相談もあった。

内水面では、コイの斃死発生件数が5件あり、そのうち個人池1件でKHV陽性が確認された。エドワジェライクタリ症は、西部の天然河川の遡上アユについて2件の陽性を確認した。また、KHV以外では、アユ、コイ、ヤマメなどで細菌性疾病の発生が見られた。

海面（出雲地区、石見地区、隠岐地区）及び内水面の疾病発生状況及び診断状況の詳細については添付資料に記述した。